

平成28年度事務事業評価シート(27年度実績)

◎基本情報

事務事業名	老朽危険空き家除却支援事業		担当部署	経済建設部 まちづくり課	
総合計画体系			根拠法令 計画など		
基本政策(大項目)	3	しっかり安心・快適 住み良い まちづくり	事業 期間	開始	平成 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">▼</span> 26 年度
政策(中項目)	2	快適に暮らせるまち なんと			終期
(小項目)					
施策	1	良好な居住環境の整備			
基本事業	2	安全で安心な居住環境の整備			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市内の空き家のうち、老朽危険空き家と認められ、倒壊すれば前面道路を2分の1以上閉塞等し、避難等に支障をきたす恐れのあるもの及び倒壊すれば隣地等に悪影響を及ぼす恐れのあるもの。														
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	災害等により周辺の住環境に悪影響を及ぼす恐れのある老朽化して危険な空き家等の除却を促進し、市民の安全と安心の確保を図る。														
事業計画	27年度に何を計画していたか	平成26年度に事業を開始し、募集戸数の5戸全て実施した後も、多くの相談が寄せられた。また、倒壊すれば隣地等に悪影響を及ぼす恐れがあるにもかかわらず、県費の補助要件である「前面道路閉塞要件」を満たさないために補助対象外となる空き家もみられた。 平成27年度は、募集戸数を10戸に増やす。補助額は、平成26年度と同様に補助対象経費の2/3とし、限度額は、倒壊すれば前面道路を2分の1以上閉塞等し、避難等に支障をきたす恐れのあるものについては平成26年度と同様に60万円とした上で、それ以外で倒壊すれば隣地等に悪影響を及ぼす恐れのあるものについては30万円として要件緩和を行う。														
成果目標	事業目標の達成度合	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">指標名</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施戸数</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">15</td> <td style="text-align: center;">15</td> <td style="text-align: center;">15</td> <td style="text-align: center;">戸</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	単位	実施戸数	5	10	15	15	15	戸
指標名	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	単位										
実施戸数	5	10	15	15	15	戸										

◎実施結果(DO)

事業実施内容	27年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	①広報なると及び公式ウェブサイトにて事業実施のお知らせを行った。 ②補助事業に関する相談があれば、申請に先立ち、補助要件を満たしているかどうか判断するための事前調査を行った。					
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名		26年度実績	27年度実績	28年度目標	29年度目標	30年度目標	単位
活動指標 <small>実施した事業の活動量を示す指標</small>	1 広報なると掲載回数	3	1	2	2	2	回
	2 補助申請相談人数	28	32	30	30	30	人
成果指標 <small>対象にどのような効果があったか示す指標</small>	実施戸数	5	10	-	-	-	戸
	目標達成率(実績/目標)	100.0		-	-	-	%
今年度の進捗状況	計画どおり		事業全体の進捗状況		計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	当初予算額	3,000	1,500	0	0	1,500	6,000
		全体予算額	3,000	1,500	0	0	1,500	6,000
		決算額	2,398	1,059	0	0	1,340	4,797
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(6,859千円/人)	臨時職員(2,071千円/人)		総人件費		総事業費	
		2.0	0.0		13,718		18,515	

【事務事業名：老朽危険空き家除却支援事業】  
(千円)

年度	26年度決算	27年度決算	28年度	29年度	30年度	
事業費推移	事業費	2,927	4,797	6,000	6,000	6,000
	うち一般財源	733	1,340	1,500	1,500	1,500
	人件費	13,756	13,718	13,718	13,718	13,718
	総事業費	16,683	18,515	19,718	19,718	19,718

## ◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった	広報なるとや公式ウェブサイトを見て申請の相談に来る方も多く、効果があった。
	効率性	B:概ね効率的だった	申請前に補助対象になるか判断することで、申請手続きにかかる無駄を省くことができた。
②成果に対する評価	指標名	実施戸数	
	目標	10	戸
	実績	10	戸
	評価	A:目標を達成できた	
③総合的な評価		B	目標戸数は達成できたが、活動内容については、有効性、効率性の観点からまだ向上の余地があると考えられるためB評価とする。

## ◎今後の方向性(ACTION)

課題	募集終了後も、相談が多数寄せられたことから、次年度の申請も多くなることが予想される。また、倒壊すれば隣地等に悪影響を及ぼす恐れがあるにもかかわらず、前面道路閉塞要件を満たさない空き家についても補助できるよう、H27年度に要件緩和を行ったが、県費については依然補助対象外であり、限度額は30万円と低額である。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	4
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	平成28年度	申請数の増加を見込んで、募集戸数を15戸に増やす。前面道路閉塞要件については、県に対し要件緩和の要望を行う。			
	平成29年度	H28年度に生じた課題に対し、改善を行う。			